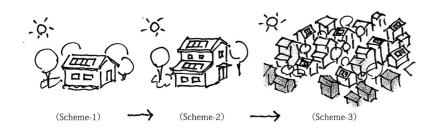
「えねこや」は、カフェやギャラリー、子育てや高齢者のサロン、市民団体の拠点、フリマやオープンガーデンなど、小さくても多様なコミュニティ空間を対象にしています。

エネルギー(省エネ)の体験型・情報発信基地としての役割だけでなく、災害時にはその自立性を生かし、地域の防災拠点としての役割を目指します。



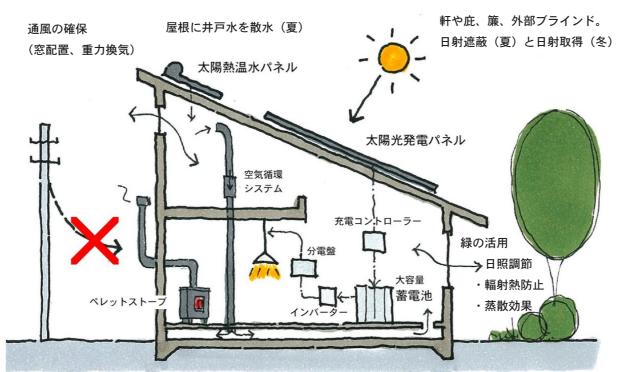
「点から線へとつながる、新たな地域発展型の半公共空間」



建築中の「えねこや」モデル

プ「えねこや」は、自然エネルギーを最大限活用して

電力自立を目指す エネルギーの小屋 のことです



雨水、地下水の活用、 節水機器の活用など

「えねこや」のコンセプト図

電力会社の送電網につながらない完全に独立したシステム。

再生可能(自然)エネルギーの普及が叫ばれるなかで、原発の再稼働や固定価格 買取制度の価格引き下げが問題となっている今、私達は「自分達が使う電気は自 分達でつくる」という考えのもと、電力会社からの供給を受けず、電力を自給自 足できるオフグリッドの小屋「えねこや」をつくり、広く普及させたいと考えて います。

太陽光発電と蓄電池で電力を賄う「えねこや」を実現するには、建物規模を抑えてミニマムな小屋にして、断熱・気密性能の向上や省エネ機器の活用により、冷暖房エネルギーの削減と大幅な省エネをはかり、太陽や風、緑などの自然エネルギーと再生可能な木質バイオマスエネルギーの活用が必要です。我慢するのではなく「少ないエネルギーでも気持ちよく、健康的に過ごせる小屋」を目指します。また国産の木材や、珪藻土や紙など、快適で安全な自然素材を活用して、環境負荷の軽減や環境保全にも配慮します。太陽光発電パネルや、大容量の蓄電池を、いかに「ローコスト」で設置できるかが、普及にむけての今後の課題です。

活動部門

低炭素型社会の推進

再生可能エネルギーの積極的活用+建築物の低炭素化

一般社団法人

えねこや®

当法人は、省エネ性能が高く、自然エネルギーを最大限活用 して電力自立を目指す小屋=「えねこや」を、半公共空間とし て地域に展開し、「エネルギー多消費型の暮らし」から「持続 可能で豊かな省エネルギー型の暮らし」へと発想の転換を促 すこと、及び「えねこや」の利活用を通して、地域住民をつなぎ、 災害に強い、エネルギー循環型の地域社会を推進することを 目的として活動しています。

- 1)地域の空き家や既存住宅を「えねこや」に改修又は新築
- 2)「えねこや」の多様な利活用に関する企画立案・推進
- 3) 市民にむけた参加体験型イベントの企画・情報発信
- 4)「えねこや」仕様にもとづくコンサルティング
- 5) 自然共生・低炭素・循環型の持続可能な社会の推進



湯浅剛

アトリエ六曜舎

(公社) 日本建築家協会会員(JIA)

· 関東甲信越支部 · 住宅部会 部会長 (2011)

・広報委員 Bulletin 編集長(2010~11)

・環境委員(2014~)

・昭和女子大オープンカレッジ講師(97 ~ 03)

・法政大工クステンションカレッジ講師(98~05)

88 京都工芸繊維大学工芸学部建築学科卒業

988 株式会社一色建築設計事務所入所

992 同退社後英国留学

大阪府生まれ

1965

93 グリニッジ大学ランドスケープ学科卒業

1994 妻・景子とともに アトリエ六曜舎設立